



特打タイプ開拓史

クイック・タッチ・タイプス

奏須文庫



著者近影

クイック・タッチ・タイプス
(通称・酒場の親父)

わざわざこの本を手取るなんて、お前さん、中々見る目があるじゃねえか。ありがとうよ。ふだん、製品の中では、ワシらもおまえさんたちも、タイピングにばかり忙しくて、なかなかゆっくり話す暇もなかったが、ここなら時間はたっぷりある。タイピングの速さなら負けねえが、文章を書くとなるとなにぶん不慣れでな。行き届かないところもあるが、のんびり楽しんでくれ。

タイプタウン SALOON 総支配人
クイック・タッチ・タイプス

特打タイプ^o開拓史

クイック・タッチ・タイプス

奏須文庫

プロローグ

—

おまえさんもご存じかもしれんが、特打シリーズはそれぞれの作品のストーリーがつながっているんだ。

今日はそのあたりを話してみるとするか。

「特打」が生まれたのは、確か「200」年のことだった。

あの頃は、キチンとしたメソッドを持ちながら、

楽しいタイプ習得ソフトが世の中に存在することなど、誰も想像しとらんかった。だから、ワシらがぶっ放し始めたら、そりゃ、みんな度肝を抜かれたものさ。

ワシらの合い言葉は、今も変わらん。「ガンガン撃てば気分爽快、タイプ上達」ってやつよ……。

すべてののはじまり

西部にあるワシらの街・タイプタウンに、さすらいのガンマン（IIプレイヤー）、つまりおまえさんがやってくる。

初心者のおまえさんに、酒場の秘密の練習場で、ワシがタッチタイプピングを一から手ほどきしたんだったな。

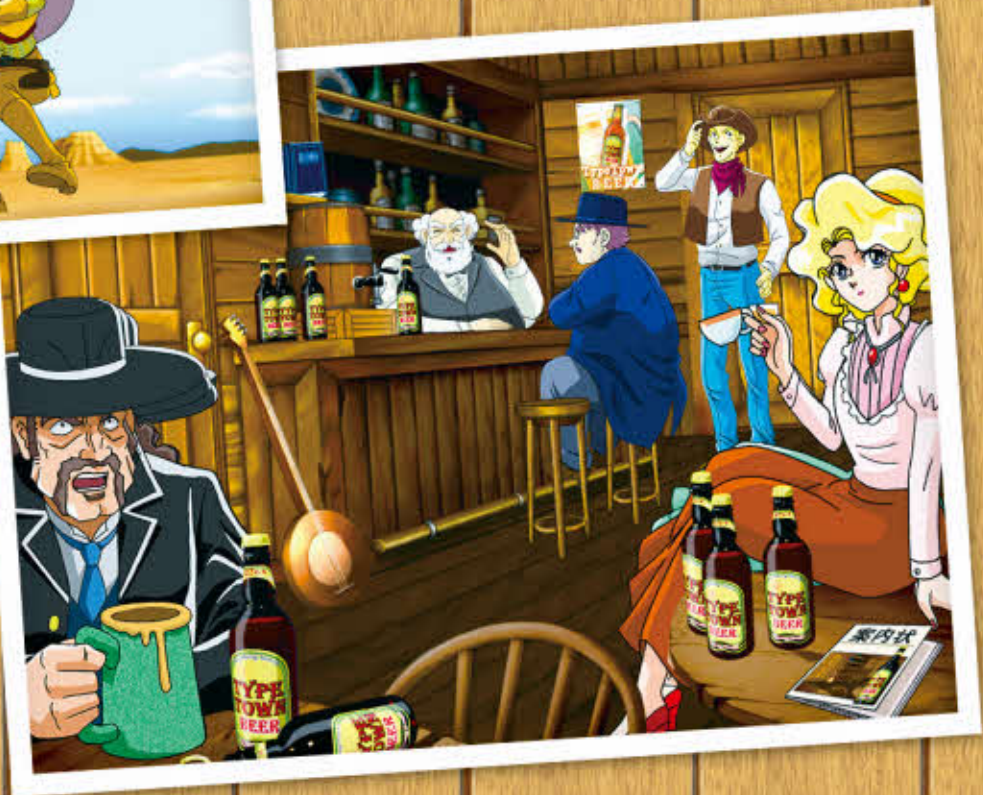
この街じゃ、タイプが打てねえと生きていけないからな。ワシの酒場には、キーボード・ガンマンたちが腕を磨きに集まってくるんだ。その連中と切磋琢磨しながらおまえさんが、キーボード・ガンマンとして成長を遂げていく。それが「特打1」のストーリーだった。

最新作の「特打」は、この「特打1」にインターネット・ランキング機能がつき、グラフィックを一新したものだから、ストーリーは同じだ。どちらから始めてもいい。

インターネットで見知らぬ人とランキングを競いたいなら「特打」、そうでないなら「特打1」というところかな。



TYPETOWN
PHOTO
GALLERY





親父、誘拐される！

「特打1」から3年後の「特打2」はワシにとっては思い出さなくない事件だったな。何しろ、不覚にもこのワシがさらわれてしまったのだからなあ。しかもワシだけでなく、ダンのヤツまで怪我を負うとは……。

おまえさんが助けにきてくれたことは、一生忘れることはなかるう。ありがとうよ。ダンからマシンガン入力の特訓を受けたんだってな。シンディのやつも、今まで秘密にしていたテンキー・タッチタイピングの技を、おまえさんに伝授したってな。あの飄々とした凄腕ガンマン・ブラボーとか、銃より速いカンフーの達人・ゴンドラ・リーとか、そして、ワシらを危機に陥れた、あのマシンガン一味との長い闘い。英語入力や文字変換、数字、記号、よくぞここまでやり抜いたな。立派なもんよ。わしも嬉しいぞ。

もうひとつの続編

そういえば、「特打1」にはもう一つの続編がある。「特打倍速かな伝説」がそれだ。要するに、ローマ字入力用の「特打1」をそのままかな入力に置き換えたものな

んだが、スタッフが仕掛けを考えおった。

そこでは、「特打1」で修行して成長を遂げたおまえさんが、ボスガンマンのダン・デイーノと決闘をするオーブニング・ストーリーから始まる。その結果、おまえさんはついにダンを倒し、街はつかの間の平和を取り戻すんだが、その世界のダン・デイーノらは、1文字2キーのローマ字入力に見切りをつけ、1文字1キーのかな入力を猛特訓し、倍速ガンマンになっておったという筋書きじゃ。

そんなこととも知らずにタイプタウンにのこのこ戻ってきたのが、おまえさんというわけだ。こうして再び、初心者となってしまったおまえさんのかな入力修行が始まる。これが、「特打1」とメソッドも、登場人物も、構成も全く同じ「特打倍速かな伝説」が、「特打1」の続編になってしまうからくりじゃ。ワシらも「今どき、この街にローマ字入力の奴なんかいないぜ」とか「特打1」を体験したおまえさんたちを意識したセリフを連発して楽しませてもらったぜ。おっと、これは内緒にしておいてくれよ。

師弟対決、実現

コンビニ限定バージョンの「特打 宿命のタイプ対決」も「特打1」に、ストーリー

がつながっているんだ。時間の流れから言えば、「特打1」よりもさらに過去の話がこの作品になるな。

「特打 宿命のタイプ対決」は、288円という破格のお買い得プライスながら、キー配置を体で覚えるための基礎メソッドを一通りカバー。実際に文字を入力する実践射撃の出題語数は「特打1」の約半分だが、重複はなく、何より、ワシとの師弟対決ができるお値打ち品じゃ。ワシとの勝負に勝てば、感動のラストシーンが味わえる。

ここでは口が裂けても言えないが、ドンデン返しの結果を用意しておるぞ。

おかげさまでこちらも大好評で、コンビニでの3ソフト販売本数の記録を更新したということだ。

おっと、これ以上話していると、結末を言ってしまうそうだな。今日は、これくらいにしとこう。

じゃ、またな。達者でな。150年後のタイプタウン

「特打コップ」のことは、ワシにはよう分からん。何せ時代が違うからな。しかし、スタッフから聞いた話によると、このタイプタウンが28年先には、タイプシティという大都会に発展しているらしいな。

そこで、ワシらの子孫がタイピングで悪と戦うらしい。何でもワシの子孫はそこで刑事とかいう保安官みたいな仕事をしとるというから、血は争えないものさ。タイプタウンには保安官がないから、タイプの凄腕が集まってくるのは分かるが、未来でも事情は変わらんらしい。

おっ、おまえさんはその時代に住んでるんだらう。この街の未来を見てきて、ワシにも教えてくれんか。いくらワシでも、二〇年も生きる自信はないからなあ。頼んだぞ。

奏須文庫

特打タイプ開拓史

2008年6月10日 第1刷
2012年2月20日 第5刷

著者 タッチ・タイプス

奏須文庫